



本気でチャレンジ みんなで笑顔

学校教育目標「 自立 協働 」



『横地が大好きです。』

6年生は社会の授業で歴史を学習しています。自分たちの住む「横地の歴史」について、元八幡宮司落合君夫さんに講義をいただきました。横地小にお世話になっている教職員も地域の歴史を知る良い機会となりました。「ふるさと横地を愛し、未来をたくましく生き抜く子どもを育む」決意をあらたにしました。講話の一部を紹介します。



1 横地太郎について…

今から約1000年前、初代横地太郎は横地の豪族となり、約450年間この地を治めました。今の藤谷神社、小笠高校のあたりに鶴松と鶴池があり、そこに御殿を作り、京の都から貴族をよびました。(今で言う接待です。)

この時代の菊川の地名は、遠淡海の国城飼郡横地の里(とおつ近江の国、きこうぐん、よこちのさと)と呼ばれ、京の都や鎌倉で「横地の出身」と名乗れば、一目置かれるような有名な場所だったようです。

横地氏は、横地小の近くに家族の住居と今でいう事務所を建てました。屋根は板やかやぶきで、土間にワラやムシロを敷いて寝ていたようです。敵の侵入を防ぐためお城は、天守閣や石垣はなく、土塁とやぐらだけの山城でした。

横地氏の長男は、代々横地太郎を名乗りました。二代目の弟は、勝間田氏と名乗り約5キロ東の勝間田に住みました。横地氏と勝間田氏は、仲良くこの地を治めました。

横地一族は、学問、乗馬、弓、和歌など、文武両道に優れた人が代々たくさん出ていたため、敵から攻められたり、田を荒らされたり、家を焼かれたりする事はなかったようです。

また、そのような一族は、代々の将軍に信頼されていたため、横地の住民は約450年間、平和に過ごすことができていました。

しかし、戦国時代に入り14代目の横地太郎が、塩見坂で戦死してしまい横地城は、今川氏に攻められてしまいました。女性や子供たちは、沢水加(さばか)の奥に隠れ、成年男子は全員戦いに参加しましたが、お城は炎上、かん落、民家なども焼き払われて、しばらくは誰も住む人がなくなる状況になってしまったようです。

今から500年ほど前のことですが、横地城は、その時まで一度も敵に攻められることはありませんでした。

今でもお城の近くには、血染めの松、勝負が谷、人切坂、赤坂(城が炎上したとき坂に真っ赤な炎がうつった)、身討原(切腹した所)、千人塚、へっぴり坂などの地名が残っています。



2 心のよりどころとは…

修学旅行や宿泊訓練などで、外泊するような時に、早く家に帰りたいな、家族に会いたいな、と思った経験があると思います。

故郷を離れている親戚の人たちが、盆や正月に横地の実家に帰って来るのは、一生懸命仕事をして、たまにはふるさとに帰って、家族や友達と会ったり、昔の思い出の場所に行ってホッくりしたいと思うからだと思います。

これが心のよりどころです。お父さんやおじいちゃん達もそう思うから横地太郎を大事にして草刈りや掃除をしています。横地の人たちにとって、横地太郎は住民全員がなかよくするためのシンボルとして大切なところで、今は桜祭りとして菊川市も協力しています。さらに盛り上げるために全国の横地さんにも出席してもらっています。君たちもその後をついでください。横地に生まれ育った君たちも横地太郎を心のよりどころにしてください。そして、新しくここに越して来た方は、君たちが初代の横地太郎です。

横地太郎はここに住んでいる人たちが、昔をしのんで大切に守ってきましたが、今後は横地の子孫の人たちも一緒に守ることを考えるといいですね。



焼津市在住の横地さん

3 自分の先祖は・・・

横地城が陥落してしまったことで横地氏は全国に散らばってしまいました。ここに残った横地の一族も仕返しを恐れて名前を変えているかもしれません。

その後、戦国時代には近くの高天神城で武田と徳川が戦いました。ここで傷ついた兵士たちの中には、けがをして故郷の山梨や愛知に帰ることができずここに住み着いた人たちもいるかもしれません。もしかしたら君たちの先祖は、横地太郎か？武田信玄か？徳川家康か？かもしれませんね。

家に帰ったらお家の方と自分の先祖がどんな人か聞いてみるのもいいかもしれません。(文責:相田)